

科目名	民法 I					単位	2.0
担当教員	早川 秋子						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	2	授業番号	5411

●授業のテーマ
社会生活と法律

●到達目標

社会生活を営むための最低限の法的知識を修得する。

「問題が起こったら、もう裁判だ！」法律というと、即、判決をイメージする人も多いですが、なぜ判決を支持できるのでしょうか？法の基本的な考え方を整理して十分に理解しましょう。

●学習内容(授業概要)

民法全般を通して適用される諸原則や諸制度を定める総則と私たちの財産に関する諸権利を定める財産法（物権と債権）について整理する。

日常生活で活用する法律行為、その代表は契約です。何気なく活用している「売ります」「買います」の中にある（債権・債務）の内容、問題あった時には債務不履行や不法行為で損害賠償を請求することもあります。欠陥商品や詐欺まがいの不良品を売りつけられた場合にどう対処すればいいのか？

身近が法を具体的事例を整理しながら、理解する。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. 民法の三原則
2. 自然人と法人 権利能力・行為能力
3. 法律行為
4. 無効と取消 法律行為の瑕疵（心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）
5. 代理制度（授權行為と代理行為、無権代理と表見代理）
6. 時効（取得時効と消滅時効）
7. 所有権（物権変動と対抗要件）
8. 担保制度（物的担保と人的担保）
9. 契約の履行（同時履行の抗弁権）
10. 債務不履行、危険負担、瑕疵担保責任
11. 不法行為（損害賠償の請求）
12. 使用者責任、工作物責任
13. 消費者契約法、特定商取引法
14. 製造物責任法など
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

各回の講義内容を事前・事後に十分見直し、テーマに関連した情報収集を心がけることで、理解が深まります。

●成績評価方法・基準

筆記テスト 80% 講義中の発言（参画度） 20%
（筆記テストには、自筆ノートの持ち込みを許可する）

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：ポケット六法（27年度版）、出版社：有斐閣、備考：手元があれば、旧版でも可

●参考文献／その他

講義中に適宜紹介する。

事前にしっかりと予習しておきたい人は、

谷口貴都・松原哲『基礎からわかる法学』（第2版）成文堂を推薦する。

この本には、民法だけでなく、憲法や消費者法なども整理されているので、民法と並行して法学や憲法を履修しようと思っている人に最適です。

●履修上の注意

暗記科目ではありませんので、講義中で理解する姿勢を大切にしてください。
積極的に参加する意欲を大切にしてください。